東京 IPO　特別コラム

２０２５年1月6日　Vol.２３５

トランプ政権発足を前に市場は様子見気分？

令和７年、乙巳の年がスタートしました。皆様明けましておめでとうございます。本年も本コラムのご愛読宜しくお願い申し上げます。昨年の株式相場は日経平均が１９％、ＴＯＰＩＸも１８％の上昇で終えましたが、大納会に続く大発会もやや様子見気分が見られます。その背景は２期目となるトランプ大統領の就任にあるのか、日本の少数与党化、石破政権への不信感なのか、お隣の国韓国の混乱なのかは不明ですが、少なくとも言えるのは順調な上昇傾向を辿ってきた米国市場の株価上昇が年末に停滞を余儀なくされたことから、これまでのポジティブな投資家心理が若干変化しようとしているためではないかと推察されます。昨年は全体指数が堅調な上昇を辿った一方でグロース２５０指数は８．８％の下落を見せました。中小型銘柄から時価総額の大きな大型主力銘柄に資金が向かった結果、二極化に至った指数変動と言えます。この結果、昨年のＩＰＯ市場も初値が公開価格を下回ったり、初値後の高値から大きく下振れする銘柄が数多く見られました。特に個人投資家の皆さんは利益確定とともに年末に向け損金処理を急ぐ向きもあり、例年通り調整色を強めていました。

時価総額の大きな銘柄と中小型銘柄との間での二極化相場が続く中で市場には割安感のある出遅れ銘柄も多数見られ、始まったばかりの本年の大発会では全体指数が調整する中で出遅れ銘柄への物色気運も高まりつつあります。昨年の株式市場にはデータセンター関連のフジクラ（５８０３）のように２３年末に比べて株価が６倍にもなった銘柄や三菱重工（７０１１）のように株価が３倍に上昇した防衛関連、エネルギー関連の国策銘柄、２倍になった日立（６５０１）など年を通じて活躍した銘柄もあれば年前半の大活躍から年後半に大きく調整を入れた東京エレクトロン（８０３５）やレーザーテック（６９２０）のような半導体関連銘柄の株価変動がありました。そうした中で１２月にＩＰＯを果たしたキオクシアＨＤ（２８５Ａ・時価総額８８４０億円）の株価は良好な業績見通しの下で比較的堅調な推移を辿っています。

市場にはＩＰＯから過去５年ほどを経過する中で多くの忘れ去られた銘柄が存在しているということも事実であり、年頭における投資家各位の関心もそうした放置され続けてきた３００程度の好業績中小型銘柄群にも関心が向かう可能性が感じられます。時価総額１０００兆円に迫るプライム市場がリードする相場展開から時価総額合計がまだ３０兆円以下の比較的割安感のあるバリュー銘柄を主体にした１５００社余りが上場するスタンダード市場、時価総額合計１０兆円以下の６００社余りが上場するグロース市場銘柄に有力投資家各位の関心が移りつつあるとすれば令和７年の株式相場は個人投資家にとっては昨年よりも面白い展開になるのではと期待が膨らむことになります。今年も2月上旬に上場予定の２銘柄（バルコス７７９０、技術承継機構３１９Ａ）のＩＰＯ承認が下り発表されましたので皆様も関心が向かい始めたものと推察されます。始まったばかりの令和７年の株式相場。投資家にどのような感動をもたらすのか本コラムでも様々に取り上げて参りたいと思いますので宜しくお願い申し上げます。

（東京ＩＰＯコラムニスト　松尾範久）